

## 研究紀要の発刊に寄せて

校長 並川 直人

私には研究部創設の成功体験があります。前任校でも指導教諭の配置があり、着任3年目に研究部を管理運営規程に定めました。年を追うごとに授業研究や実践が深まりました。

園芸高校でも同様に指導教諭の配置があり、令和4年度からの新学習指導要領のスタートも見越して3年目によりやく研究部を管理運営規程に位置付けた分掌組織としてスタートさせることができました。

先生方は専門職として授業実践を行い、改善を図っていますが、その成果や課題が教科内や学校全体で共有されず残念に思っていました。

研究部の所掌事項としては、生徒の学習効果を高めるための授業研究、指導力・授業力の向上のための教科主任会の進行管理、学校経営計画に位置付けた、「小グループによる相互の授業参観」、校内研修等に関することとしました。

校長から研究部主任に委嘱した内容は以下のとおりです。

- ・教科主任会の主催、進行
- ・若手教員の授業力、指導力向上、研究協議会への参加
- ・相互の授業参観による授業研究の推進
- ・校内研修会の企画、運営
- ・F F J 検定、アグリマイスター顕彰制度等、生徒の学習成果検証の推進
- ・農業科における「農業と環境」でのプロジェクト学習の充実

委嘱内容を踏まえ、研究部主任が教科主任会と研究会の構成を検討して、各教科から選出された研究員（教科主任の兼務も可）と教科主任との有機的な指導・助言体制を構築できるように設計し、令和3年度の活動をスタートすることができました。

東京都若手教員育成研修（1年次～3年次）や東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修をはじめ研究員の先生方が相互に授業を公開し多くの先生方が授業を参観し、助言する雰囲気醸成されました。

また、学校経営計画にて掲げている、「学習成果の客観的評価をもとに、全教職員が出席してコア課題を設定し、全日制全体で生徒の学習課題の解決に取り組み、学力を伸長させる」において、普通教科では「読解力の向上」、農業科では「プロジェクト学習の充実」を協議題として協議を行い、それを学習指導で実践し評価・検証してフィードバックする活動が行われました。共通協議題として「学習成果の検証」を掲げ、客観的な学習評価を年次比較で検証するとともに仮説を立てて取り組みました。

分科会の協議では夏季休業期間中に2回の自主研修を実施するなど、主体的な活動も行われました。

授業参観に足を運ぶ度に、多くの先生方が参観に来る姿を実感するとともに真摯な取り組みに頭が下がる思いをもちました。先生方の授業研究や指導技術に対する協働も進んだ1年でした。

まだ研究部創設から1年を経過したところですが、令和4年度からの新学習指導要領の開始、1年生からの一人1台端末の活用開始、新たな校務支援システムの導入など授業関連の変革が進行します。園芸高校における新たな歴史を創っていくための教育活動を進めていきたいと考えています。

結びに、本校での研究推進にあたり、取組を温かく御指導下さいました研究部主任、教科主任をはじめ関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

今後さらに研究を深めて参りたいと存じますので、御高覧いただきました皆様には一層の御指導を賜りますことを重ねてお願い申し上げます。